

(様式1・小学校用①)

令和5年度 学 校 評 価 報 告

草加市立瀬崎小学校

(令和6年1月26日作成)

1 学校教育目標 学校教育目標 心豊かで たくましい子 目指す学校 「子どもたち一人一人を大切にし、笑顔と活気あふれる学校」 目指す教師像 「ワンチームとなって取り組む職員」	
2 重点目標・努力目標 ◇「授業時数の弾力化に係るモデル事業」の推進 ・授業時数を弾力化した特別な教育課程の編成、実施、公開 ・SDGsをテーマにした探究的な学習の充実 ・情報活用能力に必要なICT活用の充実 ◇組織的な生徒指導・教育相談	3 前年度の成果と課題 成果 ○文部科学省、埼玉県教育委員会指定の「授業時数の弾力化に係るモデル事業」の研究発表を通して、総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントを計画実践し、SDGsをテーマとした探究的な学習を深化・充実できた。 課題 ●来年度以降も、同水準で研究を継続する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校の重点課題解決に向け、ワンチームで全教職員が解決に向けて取り組んだ。 ●「たくましい子」の取組で、体力の低下が課題である。アフターコロナにおいて、工夫しながら全校で体力向上に取り組んでいく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○探究的な学びの推進により、児童自らが行動を起こし、地域行事に参加する意識やまちづくりに対する関心や意欲が高まった。 ●学校応援団・外部人材、行政との連携を組織化する。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭を中心に、全職員が共通理解、共通行動の下、学校保健委員会においてヒヤリハットのデータシステムを構築することができた。 ●児童の外遊びにおける、安全動線の確保を行ったが、東運動場も同様に安全確保を行う。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○教職員事故防止研修において「性暴力防止に関する情報管理」についての研修を3回行い、共通理解・共通行動を確認した。 ●貯水槽の老朽化・体育館バスケットゴールの改善を図るため関係各所と調整中である。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○地域行事の再開に併せ、積極的に参加し、学校運営協議会、学校応援団、PTA、ふれあい推進室と連携し、地域と一体感のある学校教育を推進した。 ●学校HPにおいて、「ブログ」「給食」のうちいずれかを毎日更新を継続させる。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○幼稚園1園・保育園2園の給食試食会・学校見学・けん玉交流会を実現できた。 ○瀬崎中の合唱交流を再開できた。 ●瀬崎中学区において、それぞれの特色を生かしつつ、実践的・持続性のあるカリキュラム・マネジメントの構築する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○一人一台のタブレット活用により、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実推進させた。</p> <p>●教材開発と職員間共有について、研修・実践を持続可能なものとする。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<p>○校内研修を充実させ、探究的な学習の学習過程を浸透させた。</p> <p>●関わった外部人材の継続的な活用と予算を確保する。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の研修を受けることで指導力向上へとつながった。</p> <p>●児童・保護者への適切な評価計画を工夫、改善する。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<p>○外国語活動、外国語もともに、「オールイングリッシュ授業」を目指し、ALTと連携しながら授業力を向上させた。</p> <p>●コミュニケーション能力のさらなる向上の指導方法を工夫改善する。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<p>○授業研究を通して、学校全体において学級活動(1)の指導力向上を図ることができた。</p> <p>●縦割り活動が3年間行われていないため、学年を超えての交流が不足している。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○本年度も、講師を招聘と独協大学との環境教育共同研究によって「探究的な学習」を深化充実させた。</p> <p>○ポリビアとのオンライン交流、JICAとの連携によって、リアリティのある学習を実現させた。</p> <p>●個別最適な学びと協働的な学びをより一体的に充実させる。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○未然防止の取組、SSWを交えた月1回のスクリーニングを行い、チームで諸課題の早期発見・早期対応を行った。</p> <p>●関係機関との役割の明確化を図る。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	A	<p>○SDGsをテーマとした「探究的な学習」を通して、自分の将来への意識付けとなった。</p> <p>●校内研修・特別活動とキャリアパスポートの関連性を明確にする。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○特別支援教育コーディネーターを中心となり、家庭・関係機関との連携を深め、児童理解と職員間の共通理解を行った。</p> <p>●タブレットの活用を推進することで、より一層個別最適な学びを実現する。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<p>○SDGsコーナーを設置し、図書掲示を充実させることで、読書意欲への喚起へとつながった。</p> <p>●家庭においても、読書に取り組む習慣づくりを行う。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<p>○情報教育担当を中心として、研修を進めたことで、タブレットの活用が増えた。</p> <p>●外部講師を招聘しての情報モラル教育講座開催を来年度も継続する。</p>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<p>○「人権擁護団体におけるケータイ教室」を通して、人権感覚の育成に努めた。また教職員における人権研修を実施した。</p> <p>●人権感覚育成プログラムを各学級で必ず実施する。授業で確実に行われたか見届けをする。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①地域の力を学校に	・地域の安全と学校の安全確保	A	○ふれあい推進室やPTA、あいさつ運動、学校運営協議会と連携し、登下校の見守りや放課後の安全確保ができた。 ●町会と連携し、人材の確保を行う。
	②SDGsをテーマとした「探究的な学習」の推進	・学習過程を探究的にする。 ①「課題設定」 ②「情報の収集」 ③「整理・分析」 ④「まとめ・表現」	A	○「総合的な学習の時間」を軸に、探究的な学習を推進し、個別最適な学びと協働的な学び一体的に充実させた。 ●外部人材の継続して確保・活用する。
	③幼保小中連携の充実	・15年間を通じた教育課程の編成	B	○給食試食会を契機に、より一層深まった連携を次年度も継続して行うように新たな交流を位置づけられた。 ●標準カリキュラムをもとにして、中学校との一貫教育をより一層推進する。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- (1) チーム学校として、保護者・地域・関係機関が一丸となり、よい雰囲気地域とともにある開かれた学校づくりができています。
- (2) 本年度も集金を口座振替、校内行事の精選、放課後会議の削減等を行い、負担軽減を行った。また、年休取得促進システムの構築、定時退勤日の設定、業務のデジタル化の推進等を行うことで、在校時間の削減を図ることができた。
- (3) 教育支援室、かがやき、児童クラブ、児童相談所等のさまざまな関係機関と連携を行い、さらにSSW、SCの活用も行うことで教育相談の取組をより一層推進させた。
- (4) 幼稚園、保育園、小学校、幼保小中を一貫した教育をさらに強化し、深めることができた。
- (5) 学校関係者評価、保護者評価では、今年度も落ち着いて授業に取り組む児童の姿や、熱心な教員の指導も良く、学校全体の雰囲気が良いとの評価をいただいた。
- (6) 文部科学省「授業時数の弾力化に係るモデル校事業」を埼玉県教育委員会より指定を受け、SDGsをテーマとした研究発表を行い、200名を超える参会があった。市内外に対し、先進事例を示すことができた。
- (7) 研究発表を通して、行政と連携を深めることができた。（市長来校3回をはじめ、総合政策部総合政策課、子ども未来部子育て支援課、子ども育成課、谷塚児童センター自治文化部みんなでまちづくり課・文化観光課・市民活動センター、健康福祉部、環境課、広報課、市民税課、体育協会、その他）

6 次年度の改善策

- (1) 来年度も継続して、特色ある教育課程実現に向け、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを図り探究的な学習をより一層推進していく。また、SDGsをテーマとした研究をさらに進化させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
- (2) 外部機関、教育委員会、家庭・地域等と連携し、不登校児童の数を減少させる。また、課題をもっている児童への対応を全職員で共通理解の下、組織的に行っていく。
- (3) 業務量削減のため、思い切った改革が必要である。会議のペーパーレス化、集金システム改善等を推進することで、事故防止と負担軽減を図っていく。
- (4) 読書活動の充実に向け、さまざまな取組を行ってきたが、家庭における読書が定着していない。中学校区で連携し、家庭で実践できるよう読書活動を位置付けていく。
- (5) 幼保小中を一貫した教育に向け、今後も瀬崎中、高砂小、せざき保育園、あおぞら保育園、谷塚幼稚園との連携をより一層、深めていく。
- (6) 文部科学省「授業時数の弾力化に係るモデル校事業」の研究発表を通して得た経験を活かし、教員の指導力向上を図り、児童一人一人の可能性を最大限に引き出す。